

---

# 2022年度 授業概要【文学研究科】

---

科目コード：61021

科目ナンバリング：GE51C01K

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：英語コミュニケーション文化研究A(英語文学・文化概

担当者：唐戸 信嘉

## 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：火曜5限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：教職

AL要素：討論

**授業の概要：** この授業はイギリス文学のうち18世紀末から生じたゴシックの小説の系譜について学ぶ。文学テキストの分析のみならず、その文化的背景、イデオロギー、また現代文化への影響についても考察する。

**キーワード：** イギリス文学、ゴシック小説、ロマン主義

## 学位授与方針との関係

### ▼ 知識・技能

**到達目標：** イギリス文学のゴシックというジャンルについてその発生の文化的背景、ゴシックがはらむイデオロギーなどを理解する。

**評価方法：** 授業内課題

**評価割合：** 50%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** ゴシックの小説を分析し、そこに含まれる多様なイデオロギーや文化の諸相を浮き彫りにする。

**評価方法：** 授業内課題

**評価割合：** 50%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの内容から認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」に評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

### ▼ その他

なし

**評価割合：** なし

**授業計画：** 第1回：ゴシックの小説とは  
第2回：ポリドリ「吸血鬼」の分析  
第3回：レ・ファニュ「カーミラ」分析(前半)  
第4回：レ・ファニュ「カーミラ」分析(後半)  
第5回：ムルナウ「吸血鬼ノスフェラトゥ」分析  
第6回：フィッシャー「吸血鬼ドラキュラ」分析

- 第7回:Stoker『Dracula's Guest』読解(前半)
- 第8回:Stoker『Dracula's Guest』読解(後半)
- 第9回:James Hogg『The Brownie of Black Hags』読解(前半)
- 第10回:James Hogg『The Brownie of Black Hags』読解(後半)
- 第11回:デイヴィッド・リンチ「Nadja」分析
- 第12回:コッポラ「ドラキュラ」分析
- 第13回:Doyle『The Adventure of the Sussex Vampire』読解(前半)
- 第14回:Doyle『The Adventure of the Sussex Vampire』読解(後半)
- 第15回: まとめ

**使用テキスト:** ジョン・ポリドリ「吸血鬼」は種村季弘編『ドラキュラ・ドラキュラ』(河出文庫)所収の佐藤春夫訳を使用。レ・ファニユ「カーミラ」は創元推理文庫の平井呈一訳を使用。その他については教員がコピーを配布。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 毎回、読解のホームワークが出るので、翻訳あるいは原文で十分に精読して授業に臨むこと。特に英語の原文で読む場合は、知らない単語や表現については積極的に下調べを行い、理解に努めること。ゴシックの文学については唐戸信嘉著『ゴシックの解剖』(青土社、2020)を参照。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** この授業は基本的に日本語で行われるが、英語も少し使われる。

科目コード:61022      科目ナンバリング:GE51C02E      主な使用言語:日本語

授業名(英文): 英語コミュニケーション文化研究B(英語文学・文化演

担当者: 唐戸 信嘉

#### 基本情報

年次:1      単位数:2      授業形式:演習  
 曜時:火曜5限      履修可能学科・専攻: GE  
 関連資格:教職      AL要素: 討論

**授業の概要:** この授業はイギリス文学のうち18世紀末から生じたゴシックの小説の系譜について学ぶ。文学テキストの分析のみならず、その文化的背景、イデオロギー、また現代文化への影響についても考察する。

**キーワード:** イギリス文学、ゴシック小説、ロマン主義

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** イギリス文学のゴシックというジャンルについてその発生の文化的背景、ゴシックがはらむイデオロギーなどを理解する。

**評価方法:** 授業内課題      **評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** ゴシックの小説を分析し、そこに含まれる多様なイデオロギーや文化の諸相を浮き彫りにする。

**評価方法:** 授業内課題      **評価割合:** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの内容から認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」に評価対象とすることがある。

評価割合：0%

#### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

#### ▼その他

なし

評価割合：なし

- 授業計画： 第1回：ゴシックと吸血鬼の表象  
第2回：Bram Stoker Dracula, Chapter 1& 2 読解  
第3回：Bram Stoker Dracula, Chapter 3& 4 読解  
第4回：Bram Stoker Dracula, Chapter 5& 6 読解  
第5回：Bram Stoker Dracula, Chapter 7& 8 読解  
第6回：Bram Stoker Dracula, Chapter 9& 10 読解  
第7回：Bram Stoker Dracula, Chapter 11& 12 読解  
第8回：Bram Stoker Dracula, Chapter 13& 14 読解  
第9回：Bram Stoker Dracula, Chapter 15& 16 読解  
第10回：Bram Stoker Dracula, Chapter 17& 18 読解  
第11回：Bram Stoker Dracula, Chapter 19& 20 読解  
第12回：Bram Stoker Dracula, Chapter 21& 22 読解  
第13回：Bram Stoker Dracula, Chapter 23& 24 読解  
第14回：Bram Stoker Dracula, Chapter 25& 26 読解  
第15回：Bram Stoker Dracula, Chapter 27 読解

使用テキスト： Bram StokerのDraculaのテキストにはOxford World's Classics版 (Ed. Roger Luckhurst)を用いる。  
ISBN: 978-0-19-956409-5

予習・復習のポイントと参考文献・資料等： 毎回、読解のホームワークが出るので、翻訳あるいは原文で十分に精読して授業に臨むこと。特に英語の原文で読む場合は、知らない単語や表現については積極的に下調べを行い、理解に努めること。ゴシックの文学については唐戸信嘉著『ゴシックの解剖』（青土社、2020）を参照。

障がいのある履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段： オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

留意事項： この授業は基本的に日本語で行われるが、英語も少し使われる。

---

科目コード：61032      科目ナンバリング：GE52C04K      主な使用言語：日本語と英語

授業名(英文)：英語コミュニケーション言語研究C(意味論・語用論概)

担当者：三輪 健太

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：月曜4限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：教職

AL要素：07. 発表

11. 討論

**授業の概要：** 本授業では、英語の文法現象に関する英文テキストを精読する中で、特に意味論・語用論の基礎を学びます。英語の現象とその背景に存在する意味的制約を知ることで、英語に対する理解を深めます。ただ言語事実を知ることが目的とするのではなく、「なぜ」そのような事実が存在するかを考察することを目指します。  
授業は、英文テキスト精読と、教員からの問いに対する議論の形式で行います。

**キーワード：** 英語学、意味論、語用論

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標：** 基本的な意味論・語用論の知識を有しており、英文にて英語学のテキストを理解することができる。

**評価方法：** 輪読

**評価割合：** 50%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 論理的に自身の考えを構築し、それを他者に伝えることができる。他者の主張に対する批判を適切に行うことができる。

**評価方法：** ワークシート

**評価割合：** 50%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。授業内で扱った現象に関して、有益な質問・コメント等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

**評価割合：** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：** 0%

##### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合：** 0%

##### ▼ その他

普段触れる言語表現の中に「なぜ？」と問える力を培います。楽しみながら、知的好奇心を刺激しましょう。

**評価割合：** 普段触れる言語表現の中に「なぜ」

**授業計画：** 第01回: オリエンテーション  
第02回: Quantifier Raisingとは (1)  
第03回: Quantifier Raisingとは (2)  
第04回: Quantifier Raisingとは (3)  
第05回: Quantifier Raisingとは (4)  
第06回: Quantifier Raisingとは (5)  
第07回: Quantifier Raisingとは (6)  
第08回: Quantifier Raisingとは (7)  
第09回: Quantifier Raisingに課せられる意味的制約 (1)  
第10回: Quantifier Raisingに課せられる意味的制約 (2)  
第11回: Quantifier Raisingに課せられる意味的制約 (3)  
第12回: Quantifier Raisingに課せられる意味的制約 (4)  
第13回: Quantifier Raisingに課せられる意味的制約 (5)  
第14回: Quantifier Raisingに課せられる意味的制約 (6)  
第15回: Quantifier Raisingに課せられる意味的制約 (7)

**使用テキスト:** Kuno, Susumu and Ken-ichi Takami (2002) Quantifier Scopepe, Kurosho Publishers, Tokyo.

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 各回で次回読む範囲を指定しますので、事前に訳しておくこと。また、理論の概要をまとめるワークシート課題を出しますので、きちんとやってくること。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** 随時対応します。連絡先は直接お伝えします。Teamsでも対応可能です。

**留意事項:** 授業時は、必ず辞書(電子辞書等可)を持参して下さい。

---

**科目コード:** 61033      **科目ナンバリング:** GE52C05E      **主な使用言語:** 日本語と英語

**授業名(英文):** 英語コミュニケーション言語研究D(意味論・語用論演)

**担当者:** 三輪 健太

#### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 月曜4限

**履修可能学科・専攻:** GE

**関連資格:** 教職

**AL要素:** 07. 発表

11. 討論

14. 輪読活動

17. 発問と回答

**授業の概要:** 本授業では、英語の文法現象に関する英文テキストを精読する中で、特に意味論・語用論の基礎を学びます。英語の現象とその背景に存在する意味的制約を知ることで、英語に対する理解を深めます。ただ言語事実を知ることを目적으로するのではなく、「なぜ」そのような事実が存在するかを考察することを目指します。

授業は、英文テキスト精読と、教員からの問いに対する議論の形式で行います。

**キーワード:** 英語学、意味論、語用論

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 基本的な意味論・語用論の知識を有しており、英文にて英語学のテキストを理解することができる。

**評価方法:** 輪読

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 論理的に自身の考えを構築し、それを他者に伝えることができる。他者の主張に対する批判を適切に行うことができる。

**評価方法:** ワークシート

**評価割合:** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。授業内で扱った現象に関して、有益な質問・コメント等が認められる場合は、評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

##### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度により周囲に迷惑が及ぶ場合、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

普段触れる言語表現の中に「なぜ？」と問える力を培います。楽しみながら、知的好奇心を刺激しましょう。

評価割合：普段触れる言語表現の中に「なぜ

授業計画： 第01回: オリエンテーション  
第02回: Negative Islandとは (1)  
第03回: Negative Islandとは (2)  
第04回: Negative Islandとは (3)  
第05回: Negative Islandとは (4)  
第06回: Negative Islandとは (5)  
第07回: Negative Islandとは (6)  
第08回: Negative Islandとは (7)  
第09回: Negative Islandに課せられる意味的制約 (1)  
第10回: Negative Islandに課せられる意味的制約 (2)  
第11回: Negative Islandに課せられる意味的制約 (3)  
第12回: Negative Islandに課せられる意味的制約 (4)  
第13回: Negative Islandに課せられる意味的制約 (5)  
第14回: Negative Islandに課せられる意味的制約 (6)  
第15回: Negative Islandに課せられる意味的制約 (7)

使用テキスト： Kuno, Susumu and Ken-ichi Takami (2002) Quantifier Scopepe, Kurosho Publishers, Tokyo.

予習・復習のポイントと 各回で次回読む範囲を指定しますので、事前に訳しておくこと。また、理論の概要をまとめる  
参考文献・資料等： ワークシート課題を出しますので、きちんとやってくること。

障がいのある 可能な限り対応しますので、まずは学務部に連絡して下さい。  
履修者への対応：

授業時間外の連絡手段： 随時対応します。連絡先は直接お伝えします。Teamsでも対応可能です。

留意事項： 授業時は、必ず辞書(電子辞書等可)を持参して下さい。

---

科目コード：61042      科目ナンバリング：GE52C06K      主な使用言語：英語

授業名(英文)：英語コミュニケーション言語研究F(社会言語学)

担当者：Dzyabko, Yuliya

基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：水曜4限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：教職

AL要素：10 資料調査課題  
17 発問と回答

授業の概要： 本授業では、社会言語学に関する書籍を精読する中で、社会言語学の基礎を学びます。特に、地域・社会階層・人種・年齢・性別・話者のアイデンティティなどの特徴によって言語の使用はどのように変更しているのかを勉強します。

キーワード： 社会言語学、地域・社会階層・人種・年齢・性別・アイデンティティによる英語使用

学位授与方針との関係

▼知識・技能

- 到達目標： 1. 社会言語学分野に関する基礎的な知識を身につけることができます。  
2. 社会言語学的な視点から英語をより客観的に見るできるようになります。

評価方法：社会言語学の専門書の読解

評価割合：50%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標：課題発表とディスカッションを通じて、英語で論理的に考え、表現する能力を身につけます。

評価方法：課題発表、ディスカッション

評価割合：50%

▼学修に主体的に取り組む態度

「知識・技能」と合わせて評価します。

評価割合：0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合：0%

▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

▼その他

特になし。

評価割合：特になし。

授業計画：【第1回】Introduction. What is Sociolinguistics?

【第2回】Language and Society

【第3回】Place

【第4回】Social Status

【第5回】Time

【第6回】Ethnicity

【第7回】Gender

【第8回】Style

【第9回】Interaction

【第10回】Multilingualism

【第11回】Language Contact

【第12回】Attitudes and Ideologies

【第13回】Language as a Social Entity

【第14回】Education

【第15回】Conclusion

使用テキスト： 特にありません。必要な資料を授業中に配布します。

予習・復習のポイントと 参考文献

参考文献・資料等： Van Herk, Gerard (2017). What Is Sociolinguistics? (Linguistics in the World) (2nd Edition). Wiley-Blackwell.

障がいのある 履修者への対応： 可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段： メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。

留意事項： 資料は事前に十分に読み込んで授業に臨むこと。

---

科目コード：61043

科目ナンバリング：GE51C07K

主な使用言語：日本語及び英語

授業名(英文)：英語コミュニケーション教育研究E(ICTを活用した英

担当者：東海林 宏司

基本情報

---

年次：1

単位数：2

授業形式：講義

曜時：木曜4限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：教職

AL要素：10 資料調査課題

11 討論

14 輪読活動

**授業の概要：** コーパス言語学の理論的枠組を知り、PC上で動作するコーパスツールを用いた分析の手法を学び、その分析結果を英語教育の分野にどのように活用していけるかを考察する。また、DDL(Data-driven learning: データ駆動型学習)という分野について知り、その可能性を探る。

**キーワード：** コーパス言語学、データ駆動型学習

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** コーパス言語学やデータ駆動型学習の理論的枠組を理解している。また、PC上で動作するコーパスツールを使う技能を修得している。

**評価方法：** ・授業での発言・発表  
・学期末レポート

**評価割合：**30%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 英語のどのような側面をコーパスツールで分析するのが望ましいかということについて考え、実行することができる。また、分析結果を教育現場で的確に提示することができる。

**評価方法：** ・授業での発言・発表  
・学期末レポート

**評価割合：**30%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

コーパス言語学やデータ駆動型学習に関するテキストを主体的に読み、他の参考文献も積極的に探し出すことができる。また、コーパスツールを使って、主体的に英語の分析に取り組むことができる。

**評価割合：**20%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

**評価割合：**0%

##### ▼公正性

授業内で発表したり、レポートや論文を作成したりする際に、引用のルールをしっかりと守ることができる。

**評価割合：**20%

##### ▼その他

特になし。

**評価割合：**特になし。

**授業計画：**

- 01: Introduction
- 02: What is corpus linguistics?
- 03: Corpus design and compilation
- 04: What can a corpus tell us?
- 05: Overview of different types of corpus studies / How to use AntConc (1)
- 06: How can corpora inform language teaching?
- 07: Hands-on activity / How to use AntConc (2)
- 08: Useful websites for corpus linguistics / How to use AntConc (3)
- 09: Data-driven learning (1)
- 10: Data-driven learning (2)
- 11: Analyses of English using AntConc (1)
- 12: Analyses of English using AntConc (2)



- 13: Presentation by students (1)
- 14: Presentation by students (2)
- 15: Summary

**使用テキスト:** Schmitt, N. & Rodgers, M.P.H (ed.) (2020) An Introduction to Applied Linguistics, Third edition, Routledge

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:**

- ・予習: テキストをしっかりと読んでおくこと
- ・復習: テキストを読み直し、関連事例を挙げておくこと
- ・参考文献・資料等: 授業内で紹介するが、図書館等で積極的に探すことも必要

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:**

- ・オフィスアワーに研究室で対応(曜日・時限等については初回に通知)
- ・メールでの対応(メールアドレスは初回に通知)
- ・オンラインチャットでの対応

**留意事項:** 言語分析にはPCを利用する。また、コーパスツールとしては、AntConcというアプリケーションソフトウェアを使用するので、各自ダウンロードすることが必要である。

---

---

**科目コード:** 61047      **科目ナンバリング:** GE51B01E      **主な使用言語:** 日本語

**授業名(英文):** 英語文学・文化研究指導I

**担当者:** 唐戸 信嘉

#### 基本情報

**年次:** 1

**単位数:** 2

**授業形式:** 演習

**曜時:** 火曜4限

**履修可能学科・専攻:** GE

**関連資格:**

**AL要素:** レポート指導

**授業の概要:** この授業では、履修学生の修士論文作成のための準備をサポートする。教員は研究テーマに沿った調査、資料収集を指導し、学生は教員との討論を通じて論の組み立てを構想する。

**キーワード:** 修士論文、翻訳、イギリス文学、イギリス文化

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標:** 意義と方法論を自覚した上で調査をし、また先行研究を十分に整理し理解した上で、自分の研究の位置づけができる。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 独創的な視点から研究対象を考察し、明快なロジックに基づき論を構築することができる。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 50%

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの内容から認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

評価割合：0%

### ▼その他

なし

評価割合：なし

**授業計画：** 第1回：研究テーマに関する討議  
第2回：研究テーマの骨子の作成と問題点の解明  
第3回：資料収集と資料内容の検討  
第4回：『ゴシック文学神髄』（ちくま文庫）より「オトラント城奇譚」  
第5回：『ゴシック文学神髄』（ちくま文庫）より「ヴァテック」  
第6回：『ゴシック文学神髄』（ちくま文庫）より「カーミラ」  
第7回：『ゴシック文学入門』（ちくま文庫）より小泉八雲、種村季弘の論考  
第8回：『ゴシック文学入門』（ちくま文庫）より紀田順一郎、澁澤龍彦の論考  
第9回：『ゴシック文学入門』（ちくま文庫）より八木敏雄、富士川義之の論考  
第10回：『ゴシック文学入門』（ちくま文庫）より平井呈一、野町二の論考  
第11回：『ゴシック文学入門』（ちくま文庫）より前田愛の論考  
第12回：キャサリン・スプーナーの論考を読む1  
第13回：キャサリン・スプーナーの論考を読む2  
第14回：キャサリン・スプーナーの論考を読む3  
第15回：まとめ

**使用テキスト：** 『ゴシック文学入門』（東雅夫編、ちくま文庫）、『ゴシック文学神髄』（東雅夫編、ちくま文庫）

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 修士論文作成のための指導を目的とするので、授業以外の時間にも自主的に資料を収集し、また先行研究の調査を行うこと。それらを踏まえて、自分の研究について論を組み立てること。論文の素案は指導教員と十分に討議を重ね、明解な論理展開へと発展させること。英語論文の書き方については日本語論文の書き方についてはアカデミック・ジャパニーズ研究会編『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク、2015）、英語論文の書き方については [MLA Handbook 8th Edition](#) (MLA of America, 2016) を参照のこと。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項：** この授業は基本的に日本語で行われるが、英語も少し使われる。

---

科目コード：61048      科目ナンバリング：GE52B01E      主な使用言語：日本語

授業名(英文)：英語文学・文化研究指導II

担当者：唐戸 信嘉

#### 基本情報

年次：1

単位数：2

授業形式：演習

曜時：火曜4限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：

AL要素：レポート指導

**授業の概要：** この授業では、履修学生の修士論文作成のための準備をサポートする。教員は研究テーマに沿った調査、資料収集を指導し、学生は教員との討論を通じて論の組み立てを構想する。

**キーワード：** 修士論文、翻訳、イギリス文学、イギリス文化

**学位授与方針との関係**

### ▼ 知識・技能

**到達目標:** 意義と方法論を自覚した上で調査をし、また先行研究を十分に整理し理解した上で、自分の研究の位置づけができる。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 50%

### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** 独創的な視点から研究対象を考察し、明快なロジックに基づき論を構築することができる。

**評価方法:** 課題レポート

**評価割合:** 50%

### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記項目の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼ 実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの内容から認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。

**評価割合:** 0%

### ▼ 公正性

直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。

**評価割合:** 0%

### ▼ その他

なし

**評価割合:** なし

- 授業計画:**
- 第1回: 吸血鬼文学の系譜について
  - 第2回: Nina Auerbach *Our Vampires, Ourselves* "Giving Up the Ghost"1
  - 第3回: Nina Auerbach *Our Vampires, Ourselves* "Giving Up the Ghost"2
  - 第4回: Nina Auerbach *Our Vampires, Ourselves* "Dracula: A Vampire of Our Own"1
  - 第5回: Nina Auerbach *Our Vampires, Ourselves* "Dracula: A Vampire of Our Own"2
  - 第6回: Nina Auerbach *Our Vampires, Ourselves* "Our Vampire, Our Leader"1
  - 第7回: Nina Auerbach *Our Vampires, Ourselves* "Our Vampire, Our Leader"2
  - 第8回: Nina Auerbach *Our Vampires, Ourselves* "Grave and Gay"1
  - 第9回: Nina Auerbach *Our Vampires, Ourselves* "Grave and Gay"2
  - 第10回: 修士論文のアウトライン検討
  - 第11回: 修士論文のアウトライン再検討
  - 第12回: テキストの具体的な分析サンプル1の発表
  - 第13回: テキストの具体的な分析サンプル2の発表
  - 第14回: テキストの具体的な分析サンプル3の発表
  - 第15回: まとめ

**使用テキスト:** Nina Auerbach, *Our Vampires, Ourselves* (The University of Chicago Press, 1995)  
ISBN: 0-226-03201-9

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 修士論文作成のための指導を目的とするので、授業以外の時間にも自主的に資料を収集し、また先行研究の調査を行うこと。それらを踏まえて、自分の研究について論を組み立てること。論文の素案は指導教員と十分に討議を重ね、明解な論理展開へと発展させること。英語論文の書き方については  
日本語論文の書き方についてはアカデミック・ジャパニーズ研究会編『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク、2015)、英語論文の書き方については [MLA Handbook 8th Edition](#)(MLA of America, 2016)を参照のこと。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

**授業時間外の連絡手段:** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。

**留意事項:** この授業は基本的に日本語で行われるが、英語も少し使われる。

---

**科目コード:** 61064      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語が主だが、

**授業名(英文):** 英語学研究指導III

**担当者:** 東海林 宏司

**基本情報**

**年次:** 2      **単位数:** 2      **授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜5限      **履修可能学科・専攻:** GE

**関連資格:**      **AL要素:** 10 資料調査課題  
15 レポート課題

**授業の概要:** 修士論文の作成に向けて、元となるデータや参考文献など、資料収集を実施する。学生はデータ分析や文献の読み込み、教員との討論を通じて、修士論文の構成を具体化していく。

**キーワード:** 修士論文

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標:** 論文で扱うテーマの先行研究についての必要十分な知識を有している。また、適切な手法を用いて、論文に必要なデータの分析ができる。

**評価方法:** レポート      **評価割合:** 30%

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 論文の論理構成をしっかりと構築できる。また、論文の作法に則った表現を用いることができる。

**評価方法:** レポート      **評価割合:** 30%

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

自らの研究テーマに関して、参考文献を主体的に探し出すことができる。また、分析のための言語データを主体的に扱うことができる。

**評価割合:** 20%

**▼ 実践的ボランティア**

評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

**▼ 公正性**

研究論文作成において、引用のルールを守ることができる。

**評価割合:** 20%

**▼ その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** 第1回: 研究テーマの確認  
第2回: 研究テーマに関する基本文献の確認  
第3回: 基本文献の講読その1  
第4回: 基本文献の講読その2  
第5回: 基本文献の講読その3  
第6回: 先行研究のレビューその1

- 第7回: 先行研究のレビューその2
- 第8回: 先行研究のレビューその3
- 第9回: 研究テーマにおける「仮説」の設定
- 第10回: 研究テーマに関する言語データの選定
- 第11回: 言語データ分析の手法に関する相談・指導
- 第12回: 言語データ分析の実践その1
- 第13回: 言語データ分析の実践その2
- 第14回: 言語データ分析の実践その3
- 第15回: 言語データ分析結果の発表と、それに基づく考察

**使用テキスト:** 論文のテーマにより決定

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** 予習においては、研究テーマに関する参考文献をしっかりと読むこと。  
 復習においては、教員に指摘された内容を研究論文に反映させるように努めること。

**障がいのある履修者への対応:** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段:** 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

**留意事項:** 研究指導は必要に応じてオンラインで実施します。

**科目コード:** 61065      **科目ナンバリング:**      **主な使用言語:** 日本語が主だが、

**授業名(英文):** 英語学研究指導IV

**担当者:** 東海林 宏司

**基本情報**

**年次:** 2      **単位数:** 2      **授業形式:** 演習

**曜時:** 木曜5限      **履修可能学科・専攻:** GE

**関連資格:**      **AL要素:** 10 資料調査課題  
 15 レポート課題

**授業の概要:** 修士論文の完成に向けて、論文の全体構成を確定し、各章の内容を精査していく。章ごとに学生の作成→教員のコメント→学生の修正というプロセスを重ね、質の高い修士論文の完成を目指す。

**キーワード:** 修士論文

**学位授与方針との関係**

**▼ 知識・技能**

**到達目標:** 論文で扱うテーマの先行研究についての知識に加え、自らの研究によって新たな知見が加わっている。

**評価方法:** 修士論文原稿      **評価割合:** 30%

**▼ 思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** 読み手に納得感を与えられるような論理構成を備えた修士論文を作成できる。

**評価方法:** 修士論文原稿      **評価割合:** 30%

**▼ 学修に主体的に取り組む態度**

自らの知的好奇心に基づき、先行研究を踏まえた上で、主体的に独自の見解を示すことができる。

**評価割合:** 20%

**▼ 実践的ボランティア**

評価対象とはしない。

**評価割合:** 0%

#### ▼公正性

研究論文作成において、引用のルールを守ることができる。

評価割合：20%

#### ▼その他

特になし

評価割合：特になし

**授業計画：** 第1回：修士論文の全体構成の考察  
第2回：修士論文の全体構成の確定  
第3回：「序論」の執筆  
第4回：「序論」の修正  
第5回：「仮説」の執筆  
第6回～第10回：「本論」の執筆、修正  
第11回：「仮説」の検証部分の執筆  
第12回：「仮説」の検証部分の修正  
第13回：「結論」の執筆  
第14回：「結論」の修正  
第15回：参考文献リストの作成

**使用テキスト：** 論文のテーマにより決定

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 予習においては、引用と自らの考察を明確に区分して、論文原稿を作成すること。  
復習においては、教員に指摘された内容を研究論文に反映させるように努めること。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** 授業時に連絡用メールアドレスをお知らせしますので、メールのやり取りをし、必要に応じて個別面談で対応します。

**留意事項：** 研究指導は必要に応じてオンラインで実施します。

---

科目コード：61066

科目ナンバリング：

主な使用言語：日本語

授業名(英文)：英語教育学研究指導Ⅲ

担当者：村上 美保子

#### 基本情報

年次：2

単位数：2

授業形式：演習

曜時：月曜6限

履修可能学科・専攻：GE

関連資格：

AL要素：発問と回答

#### 授業の概要：

本授業では、修士論文の執筆を行いながら、自論をサポートする研究からの知見を自らの論文に引用していく技術を身に付ける。

章立てを行い、セクションごとに執筆したものを添削し、さらに必要な文献を読み込む。

**キーワード：** 修士論文

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** APAスタイルでの論文を執筆するための知識を身につけている。

**評価方法：** アウトライン

**評価割合：** 50%

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 自らの研究課題について、論文の形式に則り、十分に表現することができる。

評価方法: レジюме

評価割合: 50%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしないが、授業外で執筆をしなくてはならないので、学修に主体的に取り組む態度は必須である。

評価割合: 0%

▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。ただし論文において、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

評価割合: 0%

▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。ただし、期末レポートにおいて、剽窃等の著しく公正性を欠く行為が見られた場合は、減点等の措置をとる場合がある。

評価割合: 0%

▼その他

特になし

評価割合: 特になし

授業計画: 第1回: 論文の精読と引用個所のデータ収集1  
第2回: 論文の精読と引用個所のデータ収集2  
第3回: 論文の精読と引用個所のデータ収集3  
第4回: 論文の精読と引用個所のデータ収集4  
第5回: 論文の精読と引用個所のデータ収集5  
第6回: 論文の精読と引用個所のデータ収集6  
第7回: 論文の精読と引用個所のデータ収集7  
第8回: 論文の精読と引用個所のデータ収集8  
第9回: 論文の精読と引用個所のデータ収集9  
第10回: 論文の精読と引用個所のデータ収集10  
第11回: 論文の精読と引用個所のデータ収集11  
第12回: 論文の精読と引用個所のデータ収集12  
第13回: 章立てとアウトライン1  
第14回: 章立てとアウトライン2  
第15回: 章立てとアウトライン3

使用テキスト: APA Publication Manual 第6版

予習・復習のポイントと参考文献・資料等: 論文執筆は授業外で行い、これが予習にあたる。授業で原文を読み齟齬がないか確認をしながら、自分の論文のどのような論拠として引用できるか考えさせてストックすることが復習に当たる。参考文献・資料等は授業中に紹介する。

障がいのある履修者への対応: 可能な限り対応するので、学務部に連絡してください。

授業時間外の連絡手段: ICメールで連絡の上、研究室でのオフィス・アワー以外の相談にも対応します。

留意事項: 特になし。

---

科目コード: 61067

科目ナンバリング:

主な使用言語: 日本語

授業名(英文): 英語教育学研究指導IV

担当者: 村上 美保子

基本情報

年次: 2

単位数: 2

授業形式: 演習

**曜時：月曜6限**

**履修可能学科・専攻： GE**

**関連資格：**

**AL要素： 発問と回答**

**授業の概要：** 本授業では、データを統計ソフトで分析し、表・グラフで示しながら考察を行い、修士論文の執筆を行う。

**キーワード：** 修士論文

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標：** APAスタイルでの論文を執筆するための知識を身につけている。

**評価方法：** アウトライン

**評価割合：50%**

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標：** 自らの研究課題について、論文の形式に則り、十分に表現することができる。

**評価方法：** レジюме

**評価割合：50%**

**▼学修に主体的に取り組む態度**

直接的な評価対象とはしないが、授業外で執筆をしなくてはならないので、学修に主体的に取り組む態度は必須である。

**評価割合：0%**

**▼実践的ボランティア**

直接的な評価の対象とはしない。ただし論文において、「キリスト教精神(隣人愛)に基づき、英語による諸人生のいとなみに奉仕しようとする」言動がみられる場合は、実践的ボランティアの表出とみなし、上記の「表現力」の評価に付加することがある。

**評価割合：0%**

**▼公正性**

直接的な評価の対象とはしない。ただし、期末レポートにおいて、剽窃等の著しく公正性を欠く行為が見られた場合は、減点等の措置をとる場合がある。

**評価割合：0%**

**▼その他**

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第1回：データの整形と分析手法

第2回：分析①

第3回：分析②

第4回：分析③

第5回：分析④

第6回：結果と考察①

第7回：結果と考察②

第8回：結果と考察③

第9回：結果と考察④

第10回：結果と考察⑤

第11回：結果と考察⑥

第12回：結果と考察⑦

第13回：課題と今後の見通し

第14回：資料の扱い

第15回：論文の体裁

**使用テキスト：** APA Publication Manual 第6版

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 論文執筆は授業外で行い、これが予習にあたる。授業で原文を読み齟齬がないか確認をしながら、自分の論文のどのような論拠として引用できるか考えさせてストックすることが復習に



当たる。参考文献・資料等は授業中に紹介する。

**障がいのある履修者への対応：** 可能な限り対応するので、学務部に連絡してください。

**授業時間外の連絡手段：** ICメールで連絡の上、研究室でのオフィス・アワー以外の相談にも対応します。

**留意事項：** 特になし。

---

**科目コード：61070**                      **科目ナンバリング：**                      **主な使用言語：事前・事後指導は**

**授業名(英文)：特殊演習A**

**担当者：村上 美保子**

#### 基本情報

**年次：1**

**単位数：2**

**授業形式：演習**

**曜時：集中講義**

**履修可能学科・専攻：GE**

**関連資格：教職**

**AL要素：07. 発表**

11. 討論

13. 役割演技と疑似体験

17. 発問と回答

**授業の概要：** 中等学校もしくは初等学校で英語を教える教員として必要な英語力と、生徒・児童が進んで参加したいと思う授業を行うことができる指導技術を身につける。英語圏のTESOL(英語以外の言語を使用する学習者に対する英語教育)の専門的なプログラムを受講して2週間の集中講座で学び、英語を使って生活する体験をすることでこれを達成する。

**キーワード：** 英語教育 教員の英語力

#### 学位授与方針との関係

##### ▼知識・技能

**到達目標：** 中等学校の教員として、または、初等学校の教員として、英語指導に必要な英語力および指導力を身につけることができる。

**評価方法：** 現地の授業での発表、やり取り等によって                      **評価割合：80%**  
評価する。

##### ▼思考力・判断力・表現力

**到達目標：** 授業で扱った内容について理解し、教壇に立った時の指導について、自らの指導法を考察し、表現することができる。

**評価方法：** 現地でのマイクロティーチング                      **評価割合：20%**

##### ▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合：0%**

##### ▼実践的ボランティア

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合：0%**

##### ▼公正性

直接的な評価の対象とはしない。

**評価割合：0%**

##### ▼その他

特になし

**評価割合：特になし**

**授業計画：** 第1回目と第15回目はキャンパスにおいて、第2回目～第14回目は、研修先のハワイ・パシフィック大学キャンパスにおいて授業を実施します。プログラムA(主として中等教育教員志望者対象)とプログラムB(主として初等教育教員志望者対象)が同時進行します。最終スケジュールは6月頃に決定される予定ですので、それに沿って適宜事前指導します。

【第1回】事前指導(6月に実施予定)

【第2回】Developing a Philosophy of Language Teaching/英語の発音・会話練習#1

【第3回】Attention& Awareness in Language Classroom/英語の発音・会話練習#2

【第4回】Communication Activities for EFL Learners/クラスルームイングリッシュ#1

【第5回】Culture and English as an International Language/クラスルームイングリッシュ#2

【第6回】Strategies for Teaching Vocabulary/ALTとの打ち合わせに必要な会話練習

【第7回】Teaching English Through English/Small Talk 練習#1

【第8回】Extensive Reading: Helping Students to Become EFL Readers/Small Talk 練習#2

【第9回】Approaches to Teaching Writing/Small Talk 練習#1

【第10回】Motivating Foreign Language/Learners/英語の指導#1

【第11回】Intercultural Communication/英語の指導#2

【第12回】Developing Interactive Competence for EFL Learners/英語の指導#3

【第13回】Using Games to Teach English to Young Learners/マイクロティーチング

【第14回】Wrap-Up Session/まとめ

【第15回】事後指導

**使用テキスト：** プリントを配布します。

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** 英語のニュースを聞く、アプリで英会話の練習をするなどして、現地で気後れしないように英語に慣れておきましょう。

日本の中学校、小学校の英語の教科書を購入して、どのような授業が行われているのか、英語で説明できるようにしておきましょう。

**障がいのある履修者への対応：** できる限り対応しますので、まずは学務部にご連絡ください。

**授業時間外の連絡手段：** オフィスアワーに研究室で対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。

**留意事項：** 当該研修には、この授業を履修する学部学生の外に、本学大学院生、現職の英語教員(小学校、中学校、高等学校)が参加し、英語教育に関する研修を行います。そのため、将来真剣に教職を目指す学生のみが対象となることに留意してください。

研修期間は2022年8月7日～21日の予定で、研修費(渡航費、授業料、宿泊費等)として約60万円の費用を見込んでいます。換算レートにより変動しますので、費用が確定するのは5月頃になります。

日本およびハワイのコロナ感染症の状況により、実施が不可となる場合もあります。

質問のある学生は、村上(murakami-m@icc.ac.jp)にメールで質問してください。

---

**科目コード：**61072      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：**English  
**授業名(英文)：**Academic Communication Skills A (Listening & Speak(Academic Communication Skill  
**担当者：**Yoshiba, David C.

#### 基本情報

**年次：**1

**単位数：**2

**授業形式：**演習

**曜時：**月曜5限

**履修可能学科・専攻：**GE

**関連資格：**教職

**AL要素：**

07発表

08協同学習

11討論

**授業の概要：** Three essential skills for verbal communication for graduate students are the ability to

follow classes, give presentations, and engage in discussions involving classes, presentation, or exchanges of ideas. This class will focus on many of the mechanics of these skills as they are used in English-language academic environments.

**キーワード:** Presentation, academic discussion, active listening, active learning

#### 学位授与方針との関係

##### ▼ 知識・技能

**到達目標:** Students will learn to understand how to give academic presentations, how to listen to academic presentation, and interact in English-speaking academic situations.

**評価方法:** Student presentations

**評価割合:** 70%

##### ▼ 思考力・判断力・表現力

**到達目標:** Major concepts discussed in this class will be the constructions of discussions and presentations.

**評価方法:** Student participation in discussions related to student presentations and question and answer sessions

**評価割合:** 30%

##### ▼ 学修に主体的に取り組む態度

Students will need to be very active in class participation and completion of their work. They will be expected to engage both with the teacher and their classmates with respect to any discussions or presentations. Active listening will be vital for this engagement.

**評価割合:** 0%

##### ▼ 実践的ボランティア

As one of the functions of graduate school is to share your knowledge and research with others, students will be encouraged to do so in this class.

**評価割合:** 0%

##### ▼ 公正性

Given the nature of this class, special attention must be given to any problems such as plagiarism.

**評価割合:** 0%

##### ▼ その他

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:**

- Week 1: The importance of presentations and learning from others
- Week 2: Writing out your speech: simplify for verbal communication
- Week 3: Writing out your speech: word choice
- Week 4: Creating your slides
- Week 5: How to start a presentation
- Week 6: Methodology
- Week 7: Visuals in your presentation
- Week 8: How to begin a presentation
- Week 9: Agenda and transitions
- Week 10: Results and discussion
- Week 11: Conclusions
- Week 12: Questions and answers
- Week 13: Delivery
- Week 14: Student presentations
- Week 15: Student presentations

**使用テキスト:** Wallwork, A., English for Presentations at International Conference, ISBN 3319263285

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等：** This class will require considerable preparation by the students as there will be a high level of interaction between each student, as well as with the teacher.

The final presentation in the class will be of particular importance. It is suggested that the students begin their preparation for the final presentation within the first month of the class.

**障がいのある履修者への対応：**

The teacher will endeavor to assist any student with disabilities as far as is appropriate for the class. Any disabilities or difficulties should be reported to the student affairs office. Students may feel free, if they choose, to discuss any problems directly with the teacher.

**授業時間外の連絡手段：**

Students are encouraged to talk to the teacher directly when possible. When it is not possible, students should contact the teacher through the university email system.

**留意事項：** The class size will be small due to the nature of the graduate school. Students will be expected to participate very actively.

Given the present pandemic or other circumstances, it is possible that whole or part of the class may be offered online during 2021.

---

**科目コード：61073**      **科目ナンバリング：**      **主な使用言語：English**  
**授業名(英文)：Academic Communication Skills B (Reading & Writing)(Academic Communication Skill**  
**担当者：Yoshiba, David C.**

**基本情報**

**年次：1**      **単位数：2**      **授業形式：演習**  
**曜時：月曜5限**      **履修可能学科・専攻：GE**  
**関連資格：教職**      **AL要素：07発表**  
      08協同学習  
      10資料調査課題  
      11討論

**授業の概要：**

特例期間中の授業形態：遠隔授業(同時双方型)  
Being able to accurately write and do research in the target language is a hallmark of a serious graduate student in English. This class will put emphasis on increasing student abilities to not only read research in English, but to write their own research in accurate academic English. Emphasis will particularly be placed on the mechanics of write clear academic research papers in English.

**キーワード：** Academic English, conducting research, research writing, writing academic papers, peer editing

**学位授与方針との関係**

**▼知識・技能**

**到達目標：** Learning the mechanics and structure of writing Academic English for graduate-level studies. Reading academic research in English.

**評価方法：** Students will write reports in academic format on topics related to their own research topic.      **評価割合：70%**

**▼思考力・判断力・表現力**

**到達目標:** Learning the construction of argument and research paper structure and mechanics.

**評価方法:** Students will apply their understanding by peer-editing their classmate's writing. **評価割合:** 30%

**▼学修に主体的に取り組む態度**

Students will need to be very active in class participation and completion of their work. They are encouraged to begin the research for their writing during summer vacation before the beginning of the course. (See below.)

**評価割合:** 0%

**▼実践的ボランティア**

As one of the functions of graduate school is to share your knowledge and research with others, students will be encouraged to do so in this class.

**評価割合:** 0%

**▼公正性**

Given the nature of this class, special attention must be given to any problems such as plagiarism.

**評価割合:** 0%

**▼その他**

特になし

**評価割合:** 特になし

**授業計画:** Week 1: Punctuation, word order, and word selection  
Week 2: Paragraph construction and structure  
Week 3: Linking ideas and argument structure  
Week 4: Describing and outlining  
Week 5: Being concise 1  
Week 6: Being concise 2  
Week 7: Avoiding ambiguity  
Week 8: Paraphrasing  
Week 9: Citation and plagiarism  
Week 10: Defining  
Week 11: Comparing  
Week 12: Evaluating  
Week 13: Predicting your audience  
Week 14: Combining sections of a research paper 1  
Week 15: Combining sections of a research paper 2

**使用テキスト:** Wallwork, A., English for Academic Research: Writing Exercises, ISBN 9781461442974

**予習・復習のポイントと参考文献・資料等:** As the topics the students will write about are connected with their own research topic, it is advised that the students begin gathering the materials for their reports during the summer vacation before the class begins.

**障がいのある履修者への対応:**

The teacher will endeavor to assist any student with disabilities as far as is appropriate for the class. Any disabilities or difficulties should be reported to the student affairs office. Students may feel free, if they choose, to discuss any problems directly with the teacher.

**授業時間外の連絡手段:**

Students are encouraged to talk to the teacher directly when possible. When it is not possible, students should contact the teacher through the university email system.

**留意事項:** The class size will be small due to the nature of the graduate school. Students will be expected to participate very actively.

Given the present pandemic or other circumstances, it is possible that whole or part of the class may be offered online during 2021.

---